

新型コロナワクチンについて

けいはん医療生協では、地域住民のみなさまを新型コロナウイルス感染症の被害から守るために、各診療所が各自治体の指導の下、ワクチン接種にとりくんできましたが、現在、全国的にワクチンが不足しているため、新規の予約が行えない自治体もあります。今後も、ワクチン接種に向けて、大阪府や各自治体と連携しながら努力していきます。

■現在の各自治体の対応 (各市ホームページなどから)

【寝屋川市】

○60歳以上の方の予約は順次受け付けていますが、59歳以下の方に関しては、予約開始時期は延期となっています。可能になれば、市からハガキが到着します。このハガキがなければ、オンライン予約(集団)、各医療機関(個別)での予約はできません。

【門真市】

○64歳以下の方については、基礎疾患のある方などで市の集団接種の事前登録をした人から予約受付を開始します。その他の64歳以下の方(既に接種券は発送されています)についての予約開始日は、今後、お知らせがなされます。

【守口市】

○52歳から54歳の方で通知が届いた方、65歳未満で基礎疾患があり、事前登録を済ませて守口市から予約受付開始の通知が届いた方が、集団接種予約の新たな対象となります。52歳未満の方は今後、通知が届きます。
○65歳以上の方で予約が未だできていない方については、往復はがきで集団接種予約ができます。

組合員の作品

短歌



戦争と平和の話聞きにゆく

うなづきて聞く大和の大切さ

守口東支部

山城 久子

ふる里の訛りに一日安らぎぬ

霊場めぐりの旅に出で来て

みい支部

稲原 一枝

押入れの片づけをする古い妻が時おりふうつと溜息をつく

守口さつき西支部

中山 惟行

濁流をゴミもろともに呑み込みて濁りはすれど波だたぬ海

守口さつき西支部

木下 一

陽炎のバス停通過しふるさとへ佇む疵の影浮かびたる

門真中央支部

兵頭 克己

ウソと隠ぺい、憲法こわす政治から立憲主義を守り、いのちくらしに寄り添う政治へ

いのちくらしを託せる政治実現!

東京都議選、有権者の選択は?

7月4日、投票が行われた東京都議選は、投票率が42.4%となり、前回を9ポイント余り落ちこみました。コロナ禍とはいえ、58%近い有権者が棄権した結果、現状へのあきらめとみるか、主権者意識の低迷とみるか、きわめて深刻な問題だと思えます。

投票結果は、都民ファーストの退潮、自公で過半数に届かず、共産、立憲の野党連合は、選挙協力で一部候補者の調整を行い、互いに協力して選挙戦を戦い抜きました。

自公が都民ファーストを押し切ったとはいえ、目標の過半数に届かなかったことは、今後の政局に一定の影響を与えずにはおかないと思えます。投票した有権者の思い

は、「五輪よりいのち」と中止・延期を望む声が大きく、選挙戦の様相を左右したと思います。選挙のさなか、宇都宮健児氏(日弁連元会長)の始めた「オリンピックのネット署名は44万人に達する中で、落合恵子氏や上野千鶴子氏など、13人が始めた「五輪中止」の署名も、あつという間に広がりました。コロナ対策への無為無策、公立病院の独立行政法人化(半分民営)は、大阪の維新府政のもとで、コロナで多くの命を落とす要因にもなった極めて大きな争点でした。

東京都議会議員選挙での獲得議席数

	自民	都民ファースト	公明	共産	立憲	維新	ネット	無所属
今回	33	31	23	19	15	1	1	4 (野党2)
前回	25	45	23	18	8	1	1	5

秋の総選挙へ、都議選結果の影響は必至

有権者の選択を「全政党勝者なし」などと評するテレビコメンテーターもいますが、実態は、自公、都民ファーストの住民無視の政治姿勢が厳しく問われた結果だと思えます。こうした中で、総選挙に向けて、一定の成果を出した野党共闘(立憲・共産・社民など)の

菅政権への支持率が下がりに続けている民意の下で迎える総選挙は、国民にとつて、この悪しき政権を続けさせるのか、それとも、国民のいのち、くらしに寄り添う新しい政権を望むのか、まさに政権選択の大事な選挙になると思えます。

菅政権と対峙してきた市民と野党の共闘は、成功するのか、新しい野党連合政権構想を国民に提案できるかが問われています。

政権選択を問う総選挙へ私たちの願い

菅政権への側からの野党共闘分断工作は、熾烈を極めていきます。市民と野党の連合政権ができることを恐れていること、ほかなりません。

日本労働組合総連合会の神谷会長は、国民民主党に圧力をかけて、政権側の分断工作の急先鋒で、政権側が送り込んだ「トロイの木馬」と評されています。

しかし、今度の都議選は一つの結果を出したとみるべきです。立憲民主党の安住国対委員長は、「連合が全面支援した国民民主党は、都議選で1議席も獲得できなかったではないか」と語りました。

市民連合と立憲野党は、「小異を捨てて大同に立つ」。この悪しき菅政権を倒すことこそが、最大の旗印です。

市民連合が示した13の政策項目を基礎に一致点で協力して、野党連合政権構想を国民に示し、文字通り政権選択の選挙にすることこそ、多くの国民が待ち望んでいる希望だと思えます。

一人ひとりの力は小さいですが、集まれば政治を変える確かな力となります。あきらめずに主権者として、一票を行使しましょう。



前理事 樋ノ上博敏